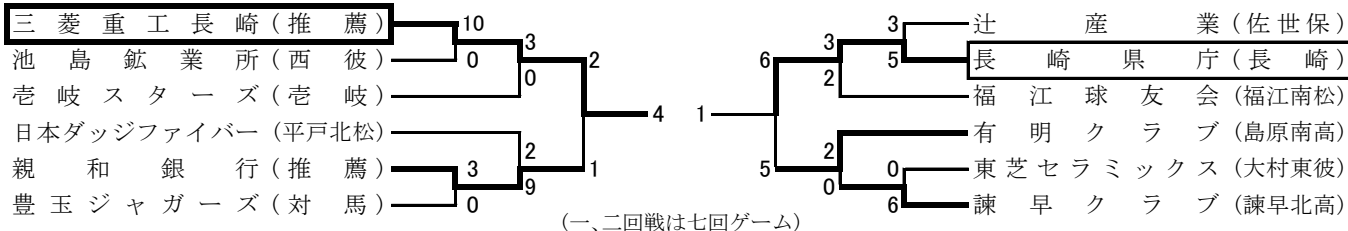


# 三菱重工と三度目の決勝戦対決でも準Vの長崎県庁

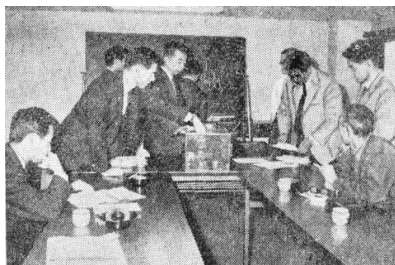
## 第21回長崎県下軟式野球選手権大会

会期 昭和46年11月6日(土)～7日(日)

会場 A・長崎市営大橋球場 B・三菱球場



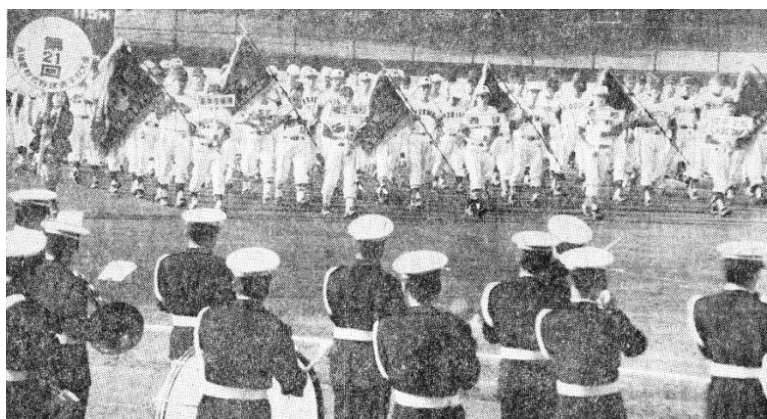
第21回県下軟式野球選手権大会は11月6、7の両日に大橋球場と三菱球場で前年度優勝の三菱重工長崎造船所、和歌山国体出場の親和銀行(推薦)をはじめ各地区代表12チームが参加して開かれるがその組み合わせ抽選会が10月29日午後零時半から長崎新聞社会議室



で行われた。抽選会には渡辺県軟式野球連盟理事長をはじめ岩永、伊藤、中村各常任理事、松村長崎新聞社事業課長ら関係者が出席し厳正な抽選を行った。主将会議は5日午後7時から長崎新聞社三階会議室で行なう、出場チームも監督、主将は必ず参加すること。

第21回県下軟式野球選手権大会は秋晴れに恵まれた6日、大橋球場で午前9時より開会式があった。

県警ブラスバンドのマーチに乗って右翼ゲートから審判団を先頭に選手団が入場。ホームプレート前に勢揃いし『君が代』で国旗と大会旗、続いて長崎新聞社旗と県軟式野球連盟旗がセンターポールに掲揚された。開会宣言のあと前年優勝の三菱重工から優勝旗、準優勝の福江球友会から準優勝杯が返還され両チームにレプリカが贈られた。主催者を代表して田中正香・長崎新聞社開発局長があいさつ。井上市教育長がお祝いのことばを述べた。選手を代表して三菱重工の野原主将が選手宣誓を行ない熱戦の火ブタを切った。



(昭和46年11月7日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【三菱】打安点

⑧ 吉武	2	0	0
⑦ 中村	3	1	0
⑤ 橋本	2	1	4
② 谷平	3	2	3
9 岩本	0	0	0
⑨2 井戸口	1	1	0
④ 弦本	3	1	2
6 浦	0	0	0
③ 出村	2	1	1
① 野原	3	0	0
⑥4 松山	2	1	1

21 8 10

### 三菱貫禄勝ち

【一回戦】=大橋:第1試合= 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	200	80	10	0	8	0	2	0	4	1
池島鋳業所	000	00	0	5	2	1	1	2	5	2

(5回コールド) 1時間11分

【評】攻守にまさる三菱は橋本の満塁本塁打を含む長短8安打で大量10点をあげ五回コールド勝ちした。初回は二つの四球を足場に2安打で2点先取し、四回には無死満塁と攻めつけ先発の福浦をKO。代わった尾上の初球を橋本が左翼本塁打。さらに四球を間に谷本、弦本、出村の3長短打で4点を追加。守っては野原が池島を散發4安打に完封した。池島は野原のタマが打てず得点圏に走者が出てもここ一発が出ず一矢も報いることが出来なかった。

【本】橋本

【池島】打安点

⑦ 面崎	1	0	0
⑥ 鈴木	2	0	0
④ 田中	3	0	0
⑧19 尾上	2	0	0
⑨8 川上	2	0	0
② 野田	1	0	0
H3 山田	1	0	0
③ 榊原	1	0	0
H 山本	1	0	0
② 須藤	0	0	0
①91 福浦	2	0	0
⑤ 白浜	2	0	0

18 4 0

### 栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

◇池島鋳業所◇ 会社や組合、各従業員とも野球に対する熱意は熱く、監督をはじめ全員が現在の職場三交代制の悪条件を乗り越えて練習に励んできた。池島野球部も過去には九州の“3強、”といわれたほどの実績をもっているが、昨年の

大島鋳業所閉山でやや沈滞気味。練習不足と試合の不慣れを補うため西彼では今年4試合を経験し無敗の好成績。投・攻・守の三拍子は揃っており一回戦突破が目標だが、初戦の相手が三菱重工。やられっ放しなのでなんとか雪辱をしたい。

(監)林俊道 (主)榊原照彦、尾上春喜、福浦栄作、須藤泰蔵、野田博、田中和義、白浜孝弘、鈴木重則、花田康彦、山本金一、面崎照義、原口勇、山田信義、川上勝美

# 親銀、豊玉に苦戦

## 最終回 3長短打で逃げ切る

【評】親銀は豊玉の善戦にあって苦戦。最終回3長短打で3点をあげ、やっと逃げ切った。前半の親銀は全くいいところがなく、走者が出てもことごとく二盗失敗し雑な攻めだけが目立った。

二回一死二塁は平凡な遊飛に二走岩下が飛び出し併殺。四回は一死後香田が二塁打。松尾の遊ゴロで三塁へ走りタッチアウト。松尾も二塁に刺された。六回にも二三盗に失敗しチャンスを逸す。守りでは互角に戦った豊玉も宮本に手が出ず勝負は後半にもつれ込み最終回の親銀は先頭の富永がうまいバントヒット。この後4番松尾が右中間三塁打して均衡を破ると、岩下の遊ゴロで松尾も返って2点目。さらにダメ押しの1点を加えた。

豊玉は1安打では勝ち目はない。



親銀は7回、三塁打を放った松尾が二死後、岩下の遊ゴロで還り2点目。

【一回戦】=大橋:第2試合=		振球犠盗併残失									
親 和 銀 行	000 000 3	3	0	1	1	1	0	2	1		
豊玉ジャガーズ	000 000 0	0	5	0	0	0	1	1	2		

【三】松尾【二】香田、末松 1時間3分

【親 銀】打安点	【豊 玉】打安点
⑨小 栗 2 0 0	⑥末 松 3 1 0
④富 永 3 1 0	③森 田 3 0 0
⑤香 田 3 1 0	⑧松 井 3 0 0
②松 尾 3 1 1	⑦中 島 3 0 0
⑧岩 下 3 1 0	②精 松 2 0 0
③岩 佐 3 0 0	④阿 比 留 2 0 0
⑥田 中 3 1 1	①古 賀 2 0 0
⑦下 田 3 1 0	⑤笹 田 2 0 0
①宮 本 1 0 0	⑨小 島 2 0 0
24 6 2	22 1 0

### 栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

#### ◇豊玉ジャガーズ◇ 大会初出場。チームを結成したの

が今年の9月。メンバーのほとんどが豊玉村役場の職員達。地区予選では上対馬、巖原、美津島といずれもシャットアウト勝ち。チーム結成1ヵ月足らずで対馬の代表に選ばれた。

地区予選の成績が示すように本格派の古賀投手を中心にした守りのチーム。チーム結成して日が浅いのと離島のため試合経験が少ないのが悩み。初出場だけに本土チームの胸を借りるつもりで無欲で相手に体当たりする。

(監)長岡明 (主)阿比留啓記、古賀豊、精松隆幸、阿比留正和、末松計二、笹田秀則、松井雅美、阿比留好文、梅野正儀、平山晃輝、小島憲治、中島均、平山藤利

#### ◇親和銀行◇

今年の公式戦は14勝3敗。国体出場を決めた西九州代表決定戦で佐賀・戸上製作所と延長14回の激戦で2-1で勝利し波に乗っている。4番香田は戸上戦で決勝ホームランを打ち長打力がある。全選手とも俊足ぞろいで足攻が見もの。

(監)曾木毅 (主)松尾敏正、山田邦雄、宮本博久、松尾義徳、飼田久、田中幸穂、富永伝二、岩佐光和、香田 博、岩下 猛、福田敏夫、下田定道、小栗辰生

#### 【辻産業】打安点

⑤岩 永 3 1 0
⑥森 山 4 2 0
②出 下 1 0 0
③落 合 3 1 2
⑦西 山 3 1 0
⑨溝 口 2 0 0
9 造 酒 1 0 0
⑧ 鶴 2 0 0
H 福 田 1 1 0
①松 尾 3 0 0
④中 尾 2 0 0
H 佐 藤 1 0 0
26 6 2

## 県庁に食い下がる 辻産業 後半、打線ふるわず

【一回戦】=三菱:第1試合= 振球犠盗併残失

辻 産 業	102 000 0	3	5	3	0	0	0	5	4
長 崎 県 庁	021 020 X	5	4	8	2	3	1	9	2

【二】森山、落合、野田、橋口、山内 1時間24分

【評】辻産業は先取点を奪うなど強敵・県庁によく食い下がった。初回森山の二塁打などで先制も二回に逆転された三回には落合の右越え2点二塁打ですぐ引っくり返した。が、辻産業の健闘もここまで。

県庁は三回に同点として、五回は先頭の橋口が左中間二塁打。続く山内も右中間突破の適時二塁打。死四球で満塁とし峰の中犠飛。2点のリードに気を良くした山内は以後、辻産業に付け入るスキを与えず逃げ切った。

#### 【県 庁】打安点

④井 口 2 0 0
⑥野 田 4 1 0
⑤ 原 4 0 0
⑧橋 口 2 1 0
①山 内 4 1 1
③山 口 1 1 1
3 芦 塚 0 0 0
⑦大 林 1 1 0
H7 島 1 0 0
⑨ 峰 1 0 1
②神 崎 2 0 1
22 5 4

### 栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

#### ◇辻産業◇ 昨年に続いて二回目の出場。エース松尾は

健在。1番岩永、2番森山の俊足コンビが塁に出るとうるさい。

上位打線は当たっており期待はもてるが下位打線がパツとしない。昨年初戦敗退なので二回戦進出が念願と控え目。

(監)山崎敬治 (主)鶴英太、松尾正輝、出下勇次郎、落合裕、中尾博嘉、岩永文雄、森山栄輔、西山敏郎、溝口良二、伊藤 登、佐藤次男、福田修身、造酒 登、光武 強

#### ◇長崎県庁◇ 昨年は二回戦で消えたので今年はひそかに

優勝を狙っている。ほとんどの選手が甲子園経験者というのも強み。エースの山内は安定度も増し、左腕の山口が新加入し投手力は万全。守備も鉄壁で穴はないが、元々準硬チーム

だけに思わぬつまづきも考えられる。

(監)中村 豊 (主)宿輪幹彦、山内英夫、山口重幸、神崎圭一、芦塚啓二、井口一彦、野田修干、原郁夫、坂口義幸、橋口保志、島 孝幸、峰増 博、大林昭二

【東芝】打安点

⑨7	茶木原	2	0	0
③	中村	2	0	0
H3	田代	1	0	0
⑥	川瀬	3	0	0
④5	上田	3	1	0
①	田島	2	0	0
4	犬塚	1	0	0
②	荻野	2	0	0
⑦	藤尾	1	0	0
H9	松本	1	0	0
⑧	畑中	2	0	0
⑤1	林	2	0	0
		22	1	0

# 4回 田島とらえる

東芝 諫早に完封負け

【一回戦】=三菱:第2試合= 振球犠盗併残失

東芝セラミックス	000 000 0	0	5	1	0	0	1	2	7
諫早クラブ	000 510 X	6	1	3	0	2	0	6	0

【二】上田、山口欽 1時間10分

【評】三回まで東芝・田島のカーブに惑わされていた諫早はやっと四回に捕らえた。この回先頭の田中が三塁頭上を大きなバウンドで越す安打で出塁。三振で一死後に死球で一塁の好機に期待の山口欽が左翼線に適時打。このあと古川の二ゴロを一塁低投し二者が還った。さらに広谷にも適時打が出てこの回に決定的な5点。

一方の東芝は諫早の宇戸に全く押えられ、二回先頭上田の左越え二塁打が唯一の得点機だったが後続なく封じられた。

【諫早】打安点

⑦	山口義	3	0	0
④	佐藤	3	0	0
②	田中	4	1	0
⑥	牛島	3	1	0
③	向井	2	0	0
⑨	山口欽	3	2	2
9	千住	0	0	0
⑤	古川	3	1	0
①	宇戸	3	0	0
⑧	広谷	2	1	1
H	今畑	1	1	0
R8	木下	0	0	0
		27	7	3

栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

◇東芝セラミックス◇ 九電大村発電所を地区予選で破って三年ぶりに返り咲いた。この数年は選手が転勤などで抜けていたが今年は立ち直った。ただ平均年齢が29歳で若手選手がいないのが悩み。昼休みの30分間が唯一の練習時間でもっぱら打撃中心で、きめ細かな試合運びが不得手なだけに多くは望めない。

(監)林淳之助 (主)田島 勉、荻野雅宣、上田隆敏  
茶木原勝利、中村 戦、松本工、川瀬正博、畑中健吾  
藤尾豊、長年芳信、犬塚誠治、田代修一、田中肇、米村公雄

◇諫早クラブ◇ 五度目の出場。ノンプロ経験者が3人おりベテランぞろいでうるさいチームだ。エースの宇戸は第1回大会からマウンドを踏んでいる。今年は全九州都市対抗県予選の代表決定戦で松早石油を7-4で打ち崩した打線が強味。試合運びが巧みでチャンスと見れば一気に押しまくる。

(監)鶴島忠義 (主)佐藤龍哉、宇戸直善、田中稔、今畑稔  
田中健治、吉谷健三、牛島一郎、向井淳、山口欽士  
古川隆夫、山口義春、広谷英徳、木谷守昭、千住良宏

【三菱】打安点

⑧	吉武	4	0	0
⑨7	中村	4	1	0
⑤	橋本	4	1	0
②9	井戸口	4	2	1
④	弦本	1	1	0
①2	谷平	1	0	0
③	出村	2	1	0
⑥	浦	3	0	0
⑦	野原	3	1	1
1	小山	0	0	0
		26	7	2

# 三菱、壱岐を振り切る

【二回戦】=大橋:第3試合= 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	100 002 0	3	5	4	1	1	0	7	2
壱岐スターズ	000 000 0	0	4	1	2	0	1	5	5

【三】出村 田代

【評】盛り上がりの無い試合となったが三菱は順当にベスト4に進んだ。第一戦に大勝した三菱は攻めが雑になり五回までに挙げた点は初回一死一二塁で井戸口が左前適時打した1点のみ。三菱らしい攻撃はこの回だけで以後は効率悪い攻めで加点できない。四回は先頭が安打も三ゴロ併殺。その後に三塁打がでるなどちぐはぐ。やっと六回、四球と敵失走者を野原の二塁打で2点を追加し善戦する壱岐を振り切った。

壱岐にとっては惜しい試合。早い回に追いついていれば勝機もあった。二回に死球の一死一塁で糸山の左中間二塁打が出たが一走が三塁寸前で憤死。四回も得点圏に進んだが後続が凡退。七回にも登板した小山を攻め無死一二塁と食い下がったが及ばなかった。

【壱岐】打安点

⑦	村田	3	0	0
⑤	向高	3	0	0
⑥	丸尾	3	0	0
⑧	浦上	2	2	0
④	糸山	2	0	0
②	田代	3	1	0
③	赤木	3	0	0
①	江浜	3	0	0
⑨	柳沢	1	0	0
		23	3	0

栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

◇三菱重工長崎◇ 安定した投手力を誇るが昨年までのエース荻野に代わった小山は速球に自信を持ち制球力もある。谷平とは硬式時代からのバッテリーで呼吸はピッタリ。各選手とも野球をよく知っているのは強みだが、やや練習不足気味。それに公式戦での連敗のショックが残っていると五連覇に黄信号。

(監)山田富嗣 (主)野原富安、荻野洋一、小山貞明  
谷平恒男、弦本匡巧、野中光之、松山靖彦、橋本五郎  
出村富男、浦伸允、井戸口達三、吉武常行、中村義見、岩本松幸

◇壱岐スターズ◇ 四回目の出場。クラブ発足15年目で郷ノ浦町内の愛好者が集まったグループだけに揃って練習する時間が無いのが悩みで、本大会はぶっつけ本番で臨む。平戸、壱岐、対馬の3島間で開催した最後の第18回玄海体育祭で優勝しているだけにナインは闘志を燃やしている。

(監)竹口嘉行 (主)赤木勝、柳沢速美、田代和彦、丸尾千敏  
糸山勇夫、江浜総一郎、立石和生、横山和雄、向高祐総、  
岩崎徹、浦上荘太郎、村田安高、古田早苗、浦川健一

【親銀】打安点

⑨小栗	3	1	2
④富永	3	0	0
⑤香田	3	1	2
②松尾敏	3	2	1
⑧岩下	3	1	0
1宮本	0	0	0
③岩佐	3	0	1
⑥田中	3	2	3
⑦下田	3	0	0
①松尾義	1	0	0
1山田	1	0	0
H8飯田	1	0	0
27 7 9			

# 初回ツルベ打ち

親銀、打者12人で7点

【二回戦】=大橋:第4試合=

親和銀行	711 00	9	2	2	0	0	0	5	2
日本ダッジファイバー	200 00	2	4	5	0	3	0	4	5
		(5回コールド)	1時間28分						

【三】福島 【二】小栗、坂井、松尾敏  
 【評】親銀は立ち上がり制球に苦しむ坂本をとらえ一気に5点を奪った。連続四球後に香田以下がツルベ打ち。7番田中の中前打で5点目。坂本は打者8人に一死も取れずに降板。代わった辻にもこの回2打席目の小栗が中越え二塁打して2点を加えた。日本ダッジは投手の乱調に加え三遊間がガタガタでは大差も仕方ない。  
 だが日本ダッジはこの大量失点にクサらずよく攻めた。一回裏には福島と坂井の長打で2点を返した。動揺した松尾義は四球を連発し好機が続いたが荒い攻撃で自ら芽を摘み、二回以降は山田と宮本にかわされた。

【日本】打安点

④福島	2	1	0
⑥3松田	2	0	0
③1辻	1	0	0
①6坂本	2	0	0
②諸石	1	0	0
⑧坂井	2	1	1
⑦前田	2	0	0
⑨田淵	2	0	0
⑤近藤	2	0	0
16 2 1			

栄冠をめざして=大会開催前の三日間に亘り長崎新聞に記されたチーム紹介記事より抜粋

◇日本ダッジファイバース◇ 若さあふれるチーム。キビキビしたプレーで念願の初出場を果たした。入社して野球を始めた者がほとんどだがチームワークの良さが身上。地区予選では下条建設を6-3。平戸クラブを2-0と坂本の好投(監)広川篤 (主)諸石英明、坂本延治、辻美次、吉田博和、福島秀雄、近藤順一 松田和幸、前田栄、坂井政彦、田淵順二、国生影明、丸田恵結、森田博明

で破ってきた。チーム打率は2割3分程度だが平均して足が速いのが強み。走者を出すと足でかき回してソツなく得点に結びつける。長打力はないが機動力を発揮できれば勝機はあるだろうが、経験の浅さからくる思わぬミスが心配。

# 県庁、サヨナラ勝ち 福江球友 田端の本塁打もハイ

【二回戦】=三菱:第3試合=

福江球友会	100 100 000	2	1	2	1	1	0	4	1
長崎県庁	002 000 001x	3	3	6	0	2	2	12	1
		(延長9回)	1時間47分						



3回裏の県庁は、打者島のとき、三走の芦塚が本盗に成功し同点に追いつく。(捕手田端)

【本】田畑 【二】橋口2、山口  
 【評】延長九回の県庁は先頭の橋口が右中間二塁打。芦塚の中飛で三進後に野田がしぶとく三塁頭上を抜いてサヨナラ勝ちした。しかし県庁は再三好機をつかみながら暴走など拙攻を繰り返し苦戦をした。  
 これに対し福江は初回到田端の適時打で先制し、四回にも田端の左越え本塁打で同点に持ち込むなど元気いっぱい。結局県庁の豊富な試合経験に敗れはしたが、強敵を相手にハツラツとしたプレーは好印象を与えた。

【福江】打安点

⑧布袋	3	0	0
⑦才津憲	2	0	0
⑤貞方学	3	0	0
②田端	4	2	2
⑥1田中範	4	0	0
④6貞方泰	3	0	0
⑨岩下	2	0	0
9田中講	1	0	0
③井川	3	1	0
①4森	3	0	0
28 3 2			

【県庁】打安点

④井口	5	1	0
⑥宿輪	4	1	0
⑧橋口	4	3	0
③芦塚	5	1	0
⑤野田	4	2	2
⑨原	1	0	0
R9坂口	1	0	0
⑦島	3	0	0
①山口	2	1	0
1山内	2	1	0
②神崎	2	0	0
33 10 2			

栄冠をめざして

◇福江球友会◇ メンバー15人のうち14人が五島高野球部OB。会社員や官公庁、商店の若主人と職業はさまざま。大型打線、華麗な守備などチームの特色を打ち出すモノはないが、その代わり全選手が平均した力を持っている。内野の守備は堅く外野手も足や肩は他チームに劣らない。昨年の大会で準優勝し、今年もファイトを燃やす。

【監】才津勝 (主)浜辺広、森久徳 田中範彰、田端辰生、貞方泰則、岩下幸夫 貞方学、井川信明、平山昌一、田中講治 山田誠、才津憲生、布袋重夫、畑中八百人

# 有明の金子好投 諫早に得点許さず

【評】五回に無死三塁の好機を逃した有明は六回に待望の1点を挙げた。先頭の吉田耕が二塁内野安打。すかさず二盗に成功し吉田富の当りは三塁ゴロ。ところが走者に気を取られて内野安打となり一三塁。竹之内は三塁ゴロだったが吉田耕が好スタートを切り三塁から

【二回戦】=三菱:第4試合=

有明クラブ	000 001 1	2	5	3	0	2	1	8	1
諫早クラブ	000 000 0	0	1	2	0	1	1	7	1
		(三)本多、吉田正	1時間25分						

【二】田中健、古川  
 の本塁送球が間に合わなかった。さらに七回は吉田正が右中間に適時三塁打しダメ押しの追加点を挙げた。  
 有明の金子投手は再三のピンチを招いたが要所をうまく締め内野陣もがっちり守って諫早を封じた。  
 個人のテーブルと有明クラブのチーム紹介は次頁に掲載

【有明】打安点

⑥吉田正	4	2	1
⑨平野俊輔	3	1	0
⑦吉田耕一	3	1	0
⑧吉田正富	4	1	0
⑤竹之内和威	3	0	1
③高見利則	3	0	0
①金子一雄	2	0	0
④稲田広視	3	0	0
②本多憲明	3	2	0
28 7 2			

**栄冠をめざして**  
**◇有明クラブ◇** 3年連続通算  
 8度目の古豪。島原南高地区では代表権をほとんど独占しており、強さは定評がある。主将でエースの金子を中心とした守りのチーム。本多とのバッテリーは高校時代からのコンビだけに息はピッタリ。過去4回ベスト4に進み特に今年は九州大会に出場して大きな自信をつけた。大きな大会になるほど強い。

【諫早】打安点

⑦山口義	4	0	0
⑤古川	3	2	0
②田中健	2	2	0
④牛島	3	0	0
⑥向井	3	0	0
⑨山口欽	3	1	0
①佐藤	3	0	0
1宇戸	0	0	0
③田中稔	1	0	0
R千住	0	0	0
3木下	1	0	0
⑧広谷	3	0	0
26 5 0			

第21回県下軟式野球選手権大会最終日は7日大橋球場で準決勝、決勝戦が行われ、三菱重工が大会史上二度目の5連覇を達成し5度目の優勝を飾った。この日もまずまずの野球日和に恵まれ日曜日とあってスタンドには家族連れやチビっ子ファンが多数つめかけグラウンドの熱戦に声援をおくった。準決勝第1試合は親和銀行と三菱重工が激突し、2-1で三菱が勝利。第2試合は県庁が先行するも有明の金子のランニング本塁打など4長短打で7回に一挙5点をあげて逆転したが県庁もすぐさま6安打集中して再逆転した。

(有明クラブの控え)  
 監督:伊達昭信、酒井和幸、牧一春、溝田功、中村岩衛、林田義幸

## 親銀、惜しい暴走

【親銀】打安点

⑨小栗	4	1	0
④富永	4	1	0
⑤香田	3	2	1
②松尾敏	3	0	0
⑧岩下	4	1	0
③岩佐	3	0	0
⑥田中	3	0	0
⑦下田	3	0	0
①松尾義	1	0	0
1宮本	1	0	0
H飯田	1	0	0
30 5 1			

【準決勝】 1時間37分 振球犠盗併残失

親和銀行	000	000	001	1	1	2	0	0	0	4	0
三菱重工長崎	000	200	00X	2	3	1	0	0	0	0	0

【評】三菱は親銀の拙攻に助けられ四回のワンチャンスを生かして勝った。親銀の先発・松尾は三回まで完璧なピッチング。だが四回二死から四球。谷平のエンドランがかかった打球は左中間を突破の二塁打を浴びて失点。続く井戸も三塁線を抜いて加点しこれが決勝点となった。親銀も五回に先頭の岩下が左中間に痛打したが三塁を欲張って刺された。五回以降は救援の宮本が三菱打線をピタリと抑えただけに岩下の暴走が惜しまれる。最終回の親銀は一死から小栗が右前打。二死後に香田がしぶとく右翼三塁打し1点差。同点の好機を作ったが岩下は投飛に倒れた。

【三菱】打安点

⑧吉武	3	0	0
⑥中村	3	0	0
⑤橋本	2	0	0
②谷平	3	1	1
③井戸口	3	1	1
④弦本	3	0	0
⑥松山	3	0	0
①小山	3	0	0
⑦野原	2	0	0
25 2 2			

## 県庁、見事な逆転

【準決勝】 1時間39分 振球犠盗併残失

長崎県庁	000	100	050	6	3	1	1	1	0	11	1
有明クラブ	000	000	500	5	8	2	0	1	0	2	5

【本】金子【三】吉田正【二】坂口、今村、井口、竹之内  
 【評】後半、両軍打線が爆発し合わせ18安打の打撃戦となったが、県庁が打ち勝って辛勝した。県庁に対して自信を持つ有明は四回に1点先行されたが伸び伸び戦った。六回まで山内の好投の前に沈黙していた打線が七回に爆発。一死から吉田富の遊撃内野安打と竹之内の左翼線二塁打で追いつき、二死となって金子が中越えにランニングホームー。さらに2走者をおき吉田正が右中間三塁打し合計5点を挙げ一気に引っくり返した。試合は決したかに見えたが八回に県庁打線にも火が付き、坂口の遊失後に橋口以下が3連打。山内投ゴロ後に井口と神崎が好打し一挙5点を奪って再びリード。見事な集中打で好投する金子の息の根を止めた。

【県庁】打安点

⑥野田	2	0	0
H6宿輪	3	0	1
⑦島	2	1	0
3芦塚	3	0	0
③9坂口	5	2	0
⑧橋口	5	1	0
⑤原	4	1	1
⑨7今村	5	2	1
①山内	5	1	0
④峰	0	0	0
H4井口	5	2	3
②神崎	5	3	0
44 13 6			

【有明】打安点

⑥吉田正	4	2	2
⑨溝田	2	0	0
9酒井	1	0	0
H中村	1	0	0
94平野	0	0	0
⑦吉田耕	4	0	0
⑧吉田富	4	1	0
⑤竹之内	4	1	1
③高見	4	0	0
①金子	4	1	2
④9稲田	4	0	0
②本多	1	0	0
33 5 5			

決勝戦は三菱重工と長崎県庁の対戦。三菱が連投・小山の快投で県庁打線をおさえ、ソツのない攻撃で4点を奪ったのに対し、県庁打線は芦塚の本塁打による

1点しかとれず、三菱重工が5連覇し5度目の栄冠に輝いた。  
 (昭和46年11月8日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

# 新鋭小山が力投

## 5連覇の三菱重工

【決勝】 1時間33分 振球犠盗併残失

三菱重工長崎	020 001 001	4	2	5	3	0	0	3	0
長崎県庁	000 000 100	1	3	1	0	0	1	2	1

【評】三菱は二回に2点を先取り優位にたち六回と九回にも加点してダメ押し、県庁の追撃を振り切って5連勝した。

二回の三菱は先頭の谷平が四球。手堅く送り弦本三振後に松山と小山が連続二塁打してソツなく2点を先取。六回には谷平の二塁打などで無死満塁として県庁の山内をK0。弦本の遊ゴロで三走の橋本が生還。さらに最終回は三塁打の弦本が小山のスクイズで還りダメ押し点。

守っては新鋭の小山が力投し、強打の県庁打線を力でねじ伏せた。リードされた県庁は各打者とも振りが大きくあせりが目立ち、快投する小山の思いのままに料理され、準決勝で13安打を放ったのがウソのよう。やっと八回に芦塚の左翼本塁打で一矢を報いたにとどまった。県庁にとってはチームの中心の浜村の欠場が大きく響いた。

### 【個人賞受賞者】

- ◇最高殊勲選手賞: 小山貞明(三菱) ◇最優秀投手賞: 小山貞明(三菱)
- ◇首位打者賞: 吉田正(有明) ◇打撃賞: 橋口保(県庁)、香田博(親和)
- ◇敢闘賞: 山内英夫(県庁)、谷平恒男(三菱) ◇勝利監督賞: 山田富嗣

- 【本】 芦塚
- 【三】 弦本
- 【二】 松山、小山、谷平



6回表の三菱は無死満塁に弦本の遊ゴロで三走の橋本生還し3点目

【三菱】打安点

⑧ 吉武	4 0 0
⑨ 中村	3 1 0
H3 出村	0 0 0
⑤ 橋本	2 0 0
② 谷平	3 1 0
③⑨ 井戸口	2 0 0
④ 弦本	4 1 0
⑥ 松山	4 1 1
① 小山	3 2 2
⑦ 野原	3 0 0

【県庁】打安点

④② 井口	4 0 0
⑥ 宿輪	4 0 0
⑧ 橋口	4 1 0
③ 芦塚	3 1 1
⑨ 坂口	3 0 0
⑤ 原	3 0 0
⑦ 島	1 0 0
7 今村	1 0 0
① 山内	2 0 0
1 山口	1 0 0
② 神崎	1 0 0
H4 野田	2 0 0

強打県庁をひねる

打線もソツなく得点

天皇賜杯第26回全日本軟式野球大会 8/8～・石川県  
親和銀行 【一】 3-8 常盤交通(福島)

高松宮賜杯第15回全日本【16チーム×2】は不出場

参考 第16回全国高校軟式野球優勝大会

### ◇口加高校◇

- ◆北九州大会
- 【一】 2-1 大川工高(福岡)
- 【決】 3-1 山香農高(大分)
- ◆全国大会
- 【二】 2-0 松山商高(愛媛)
- 【三】 1-0 渋川市工(群馬)
- 【準】 1-0 熊本商高(熊本)
- 【決】 5-2 浜田高(島根)

※全国優勝した口加高校は国体に出場したが初戦で静岡商と対戦し0-0のまま延長20回裏二死一二塁に左前安打でサヨナラ敗戦。

※エースの木村は日大を経て50年のドラフト5位で太平洋クラブ入団。日ハム→大洋で10年在籍。75試合4勝2敗3S。142回で防御率4.73。

投手	木村 広
捕手	酒井 春人
一塁	田口 伸介
二塁	相良 譲
三塁	沖田 賢一
遊撃	相田 健次
左翼	林田 哲郎
中堅	田口 忠久
右翼	太田 勝秀
控え	竹市 安志
	竹田 光徳
	吉川 千年
	定方 一亀
	松本 茂
部長	永田四志男
監督	白水 正剛

常陸宮賜杯第7回全日本準硬式野球 6/5～・千葉県  
長崎県庁 【一】 0-7 旭可鍛鉄(静岡)

第26回和歌山国体【30チーム】10/25～  
親和銀行 【一】 10-0 盛岡信用金庫(岩手)  
【二】 1-2 金沢市役所(石川)

国体・長崎県予選

8/21 大橋

池島鋳業所	000 000 200	2
三菱電機製作所	001 000 02X	3
長崎無線電報局	000 000 00	0
親和銀行	000 123 01x	7
松早石油店	000 000 006	6
大村火力発電所	000 000 000	0
SSK佐世保重工業	000 000 00	0
有明クラブ	010 000 51x	7

国体西九州予選

9/18 佐賀

佐賀県庁	0
親和銀行	1
目達原自衛隊	2
松早石油店	0
戸上電機製作所	7
三菱電機製作所	5
有田白領	3
有明クラブ	5